

読 書 会

科目責任者：北 村 聖（教育支援センター）

I. 前 文

「患者に寄り添う良医」という言葉を見た時に、具体的にどのような医師像を思い浮かべるだろうか。本選択科目では患者から信頼される医療人を目指し、日々の研鑽に励むときに明確にイメージすることの難しい「良い医者」とは何かを、様々な本を読むことで考察する。患者をケアすること、死にゆく患者への向き合い方、正解のない問いなどを考える過程で、医師のプロフェッショナルリズムの涵養することを目的とする。

この講義に参加すると、科学的に意思決定ができるようになります。患者とのコミュニケーションが良好になります。さらに、メタ分析を用いた視野の拡がり体験できます。

II. 受入可能人数

原則人数は制限しないが、20名程度を考えている 最低人数2人

III. 担当教員

特 任 教 授 北 村 聖（教育支援センター）

Mail : kitamura-ky@umin.ac.jp

他

IV. 学習内容

課題本の内容についてディスカッションやグループワークを通じ、学生自身が主体となって考えてもらい意見交換をすることで、読書した内容の理解を深めていく。

通常は1ヶ月に1回程度で実施し、日程等は本選択科目を選んだ学生と調整する。

V. 学修の到達目標

社会人として求められる高い倫理観と教養を持つことを目指す。

VI. 成績評価の方法・基準

受講態度等を形式的に評価するとともに、読書内容に関連したレポート課題で総合的な評価をする。

VII. 教科書・参考図書・A V資料

必要に応じてその都度紹介する。

VIII. 質問への対応方法

教員の個人メール、あるいは教育支援センター地域医療教育部門（メール：commed@dokkyomed.ac.jp）に連絡してください。参加を迷っている人も大丈夫です。連絡頂ければ適宜、対応します。

IX. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：図書館も利用しながら許す範囲で購読し、読書の習慣を身につける。(30分)

事後学習：各回の議論の内容を咀嚼してもう一度課題本に立ち返り各自の人生航路の糧とする。(30分)

X. コアカリ記号・番号

PR-04：生命倫理

LL-01：生涯学習

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

課題本の内容および各回のディスカッションの内容を踏まえたレポート課題への添削/コメントを通じてフィードバックとする。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医 学 知 識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨 床 能 力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能 動 的 学 修 能 力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社 会 的 視 野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人 間 性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○